
mAgicAl
compUteR
MusiC
magical power mako

mAgicAl compUteR MusiC

マジカル・コンピュータ・ミュージック

マジカル・パワー・マコ(作曲・演奏・唄)

1 ロード・ザ・ヴァージン(2:43)
Load The Virgin

2 チェンマイ(3:09)
Chiengmai

3 スリラー(3:28)
Thriller

4 ジィス・イズ・ザ・コンピューター・ミュージック(1:18)
This is the Computer Music

5 スタジオMIDI(4:13)
Studio MIDI

6 アラベスク(0:47)
Arabesque

7 メタルCPU(2:14)
METAL CPU

8 ユー・ニード・ア・スィート・リトル・コンピューター*
You need a Sweet Little Computer* (5:13)

9 マドンナ(2:34)
Madonna

10 日々の糧(3:41)
Live on the Music

11 アイル・フェイド・アウェイ*(3:29)
I'll Fade Away

12 フロム・ナムバー・シックス・トゥ・テン
From Number Six to Ten (10:56)

13 マイ・ランド(3:27)
My Land

14 スプリング・ストーム(6:56)
Spring Storm

15 "L5"

16 "TCM"

17 "THR"

15 16 17 はパソコンデータですので音楽はCDプレイヤーより再生されません。データ音は大音量なのでスピーカー音を小さくした方が安全です。
15 16 17 are Computer Data.

Blue Mountain Reiko (Vocal)* ブルーマウンテン・レイコ(唄)*

■Producer: Taichi Kametani ■Designer: Yoshihiro Tsuchiya ■Cover Photo: Keiichi Ootake ■CD Cue Editor Tetsuro Tomita
表紙撮影協力：東京ヒルトン・インターナショナル

32DG 38

HELLO! from MAKO

ハロー！ こんちわー　マコでーす。
20世紀も残すとこ15年となりまして、時代は、進歩の速度を速めております。楽器の世界も新製品のラッシュが続いています。

2～3年前まで、シーケンサーとシンセを繋いで、狂喜してレコーディングしてたのが今では、それらの楽器は中古楽器売場で、ほこりをかぶって眠っています。

1981年僕は、4枚目のアルバム“ウェルカム トゥージ　アース”を発表しました。
その頃ちょうどパソコンブームの走りで、コモドールVIC1001を買ってゲームなんぞをして遊んでました。そのパソコンには、サウンドジェネレータが内蔵されていましたが、とても音楽に使える代物ではなく、アルバム制作は、もっぱらシーケンサーとシンセとリズムマシンでやっていました。その後コモドールから本格的PSG（プログラマブルサウンドジェネレータ）内蔵のC－64というパソコンが発表され、その魅力に取りつかれたのが、僕のコンピュータ・ミュージックの始まりです。

1982年には、ビデオとCGとコンピュータ・ミュージックによるパフォーマンスなどをやりパソコンによるアートの可能性を探りました。しかし3声のPSGだけでは音楽表現に限界があり、いまひとつ満足できなかったのは僕だけではなかったはずです。

1983年、この年の半分はロサンゼルス（サンタモニカ）で過して、ライブ（Club 88）やレコーディング（ノースハリウッド＆ホノルル）を通じアメリカンミュージックを学んだ僕が日本に帰り、まず目についたのが、MSXの広告でした。“8音色8重奏可能”のパソコンの出現に思わず雑誌の広告ページを破り取ってしまいました。しかしその段階では、ヤマハの作曲用ソフト“FMミュージック・コンポーザーYRM－15”はまだ発表されていない状況だったので、直接、日本楽器豊岡工場を訪ねたのでした。そこでの説明に、わかったふりをして帰ってきたのでした。（ホントはちんぷんかんぷんだった）その後、さっそくYIS503を伊豆へ持ち帰り、まだまともに走ってくれないテストバージョンのソフトを相手に、孤独な日々が始まりました（毎日徹夜）。

1984年初頭には、オリジナルの曲も出来始め、リットーミュージックとデータ曲集の契約をして（発売は11月）、その抜群の性能をより多くの人々に知ってもらおうと、アスキーのMSXマガジンにマコズCCCなるコンピュータ・ミュージックセミナーを5ヵ月間にわたって連載し、大きな反応を得ました。その間もロスにも行き、まだ使い方を知らないあちらのエンジニアーに僕が教えるなどという事もありました。

マイケルジャクソンのジャクソンズのツアーの楽器のフォローをしているMr.Butleman

とノースハリウッドまでのドライブの間、僕のミュージックを聴きながら“とてもいいね 明日マイケルと会うから” というのでテープを渡したんだけど、マイケルは気に入ってくれたかなー。

5月には日本でマイコンショーがあってそこで演奏したんだ、4ヵ月間で12万人もの入場者、一般の関心の高さを思い知りました。9月にはFM音楽とPCMリズム自動演奏装置内蔵の“キーボーディシモ”が、ヤマハから発表され、コンピュータ・ミュージックの新しいシーンの幕が開きました。僕は、マイコンショーで知り合ったヤマハMSXインストラクターの青山礼子さん(芸名　ブルーマウンテンレイコ)とバンドを組み、MSX 4台とキーボーディシモ2台でライブをする事にしました。レイコちゃんは、MSXにはプロでキーボードの腕前も先生並、おまけに美人で美声ときちゃうから、リハーサルもスゴクやりやすくて、次々と新曲もクリアー。10月の横浜ヤマハオープンや11月六本木WAVE(CNNで全米オンエアー)、ヤマハデジタルフェアー東京などで革命的演奏を繰広げました。

そしてたどり着いたのがこのCBS SONYのCOMPACT DISCです。ここで初めてたくさんの人に集大成を聴いてもらえる。それもデジタルで! やはりデジタルシンセの音は、デジタルでシャープに聴いてもらいたい。そして、スペシャルプレゼントとしてMSX用グラフィックプログラムとヤマハFMミュージックコンポーザー用データ2曲がCDの最後に入っています。MSX持ってる人は、ロードしてみて下さい(詳しくは解説を見て)。

1985年はCDとMSXそしてマジカルパワーマコの年です。

ヨロシク!

ホナ　ビュイ——ン

って　とこかな?

★ HOW TO SET UP ★

まずこのアルバムの大部分の曲を演奏している。

FMミュージックコンポーザ(ヤマハ)

のシステムとそれぞれの機能を紹介します。

■MSXコンピュータ　1台 (ヤマハ以外の場合ユニットコネクターが必要)
ユニットコネクター　UCN－01　¥7800

■FMサウンドシンセサイザーユニット
SFG－01　¥19800
従来のモノシンセ8台分を超LSI化して、さらに48音色メモリーのデジタルシンセの機能

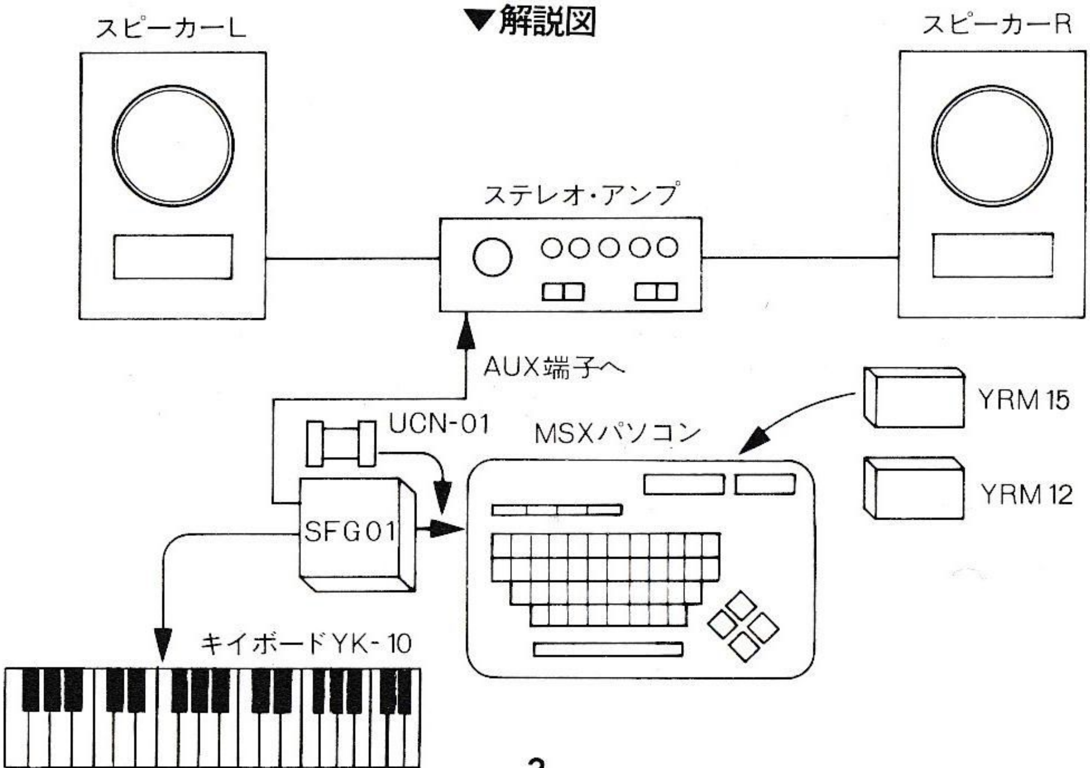
を持ったソフトも内蔵している。まさに魔法の小箱である。

■ミュージックキーボード　YK−01　¥17800
YK−10　¥29800
SFG−01に接続して演奏するキーボード
01はミニ10は標準鍵板。

■FMミュージックコンポーザ
YRM−15　¥7800
SFG−01をコントロールして、8パート8音ポリフォニック46音色の作曲／楽譜作成／自動演奏ソフトです。TV画面でパート譜表示。各種音楽記号やLFO・サステイン・ステレオ定位などを譜面上で指定。エディット機能もバッチリ。MIDIシーケンサーとしても使える。優れ者だ。

■FMボイシングプログラム
YRM−12　¥7800
SFG−01のプリセット音色で満足できない人は、これでオリジナルサウンドを48音色作ってコンポーザーで使う事ができる。もちろんこのアルバムでは、すべてマコのオリジナル音色が使われているのです。パーカッションやストリングスなんかのボイシングは難かしかったっちゃ。初心者は、プリセット音色データのアレンジから始めるといいょー。

▼解説図



DG 38

■曲目解説

1 LOAD THE VIRGIN

なんと言っても、この曲は、コンポーザで初めて作った曲で、まだ右も左も、分からないまま、マニュアル原稿のコピーを見ながら、それでもできるだけ、この素晴しい、コンピュータミュージックの魅力を引き出そうと努力した。したがって音色もシンセベース、エレクトロドラムス、ヒューマノイドボイス、シンセシンバル、ガムラン、など、FM音源らしさを目いっぱい表現した。ステレオでパンポットするベーシックリズムセクションに、レゲエの乗りで絡むヒューマノイドボイスが、新しいミュージックシーンの到来を歓喜している。タイトルのロード・ザ・バージンが示す通り、世界初のパソコンミュージックとして、歴史に残る一曲である。

なおこの曲のデータはリットーのマイサウンズグラフィティに収録されています。システムをお持の方は、データをアレンジしたりして、参考にして下さい。エコー処理はSONYのスタジオ用デジタルリバーブを使っていて、メモリーした各モードのエコーをワンタッチでスイッチングしています。エンディングの効果音は、セイシャル諸島の波と鳥の鳴き声で、CBSソニーのスタッフが苦労して録ってきた、原地デジタル生録音です。

………気分は、すっかりトロピカルですね。

2 CHIENGMAI

突然、聴こえて来る、民族音楽。サントゥールとムリダンガム(インド)の響き。そこへガムランのパーカッシブなサウンドと、ジューズハープの魔術的な響き。サーランギのインタープレイが、君をメディテーションの世界へ誘う。超絶技法も種を明かすと、こんな簡単なスコアーで演奏されている。(スコアー)

なおこの曲のデータはリットーのマイサウンズグラフィティに収録されています。システムをお持の方は、データをアレンジしたりして、参考にして下さい。

CHIENGMA1 Part1 の楽符

Print=1,4
Poly2 ＃750 utR.54



プリント命令　1小節から4小節目までをプリントアウト

Poly2、𝄋、＃75、Out R、S4 の記号解説

Poly 2　2つのボイスを使って演奏せよという事。

𝄋　セーニョー、セーニョ D.S からここへ返る。

＃75　オリジナル音色75番の音色で演奏せよ。

OUTR　ステレオ右チャンネルより出力せよ。

.5　スタカートの値、0.5という事です。

4　4回くりかえす、この後の :‖ の間を、指定された数だけくりかえす。

3 THRILLER

忍び寄る恐怖……暗黒の空間から何かがあなたを呼んでいる。時も空間も飛び越え、あなたをブラックホールへ引き摺り込む。この曲は、パロマ天文台の電波望遠鏡が拘えた、白鳥座のブラックホールの発っする、紫外線のスペクトラム分析データを、スーパーコンピュータでＡＤ変換したものです。詳しい説明は避けますが、この曲のデータは、ＣＤの17トラックに、入っているので、コンピュータにロードして、良く研究してみて下さい。

4 THIS IS THE COMPUTER MUSIC!

1984年4月TOKYO〜L.A. の太平洋上で作曲されたこの曲は、SFG—01のプリセット音色だけで演奏されている。いかにもコンテンポラリーな響きは、コンピュータミュージックの、エジュケーシュンモデルケースとしての価値がある。要するに近未来の音楽教育のかっこうの素材という事です。ブラス系の音色で統一されたサウンドは、ブラスバンドの為に特別にマコさんが作曲したものです。という事で、この曲のデータは、CD の16トラックに、入っているので、コンピュータにロードして、良く研究してみて下さい。

This is the Computer Music　全パート符

Part 1　＃18 オーボエ アルペジオ

Print＝1、2 f18Ø ♩＝15Ø ＃186 OutR



Part 2　＃41　ベース

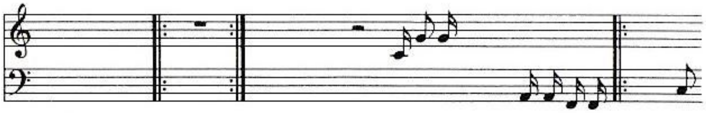
Print＝1，2　V2554　＃414

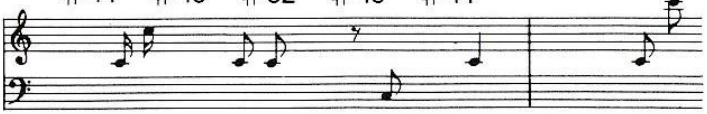




Part 3　リズム #44　カウベル　#43　スネアドラム
#32ティンパニー

Print=1,2　f2557　#44　#43　2#32





Part 4　#1　ブラス　バッキング

Print=1,2. 2#11 Od6





Part 5　#1　ブラス　中

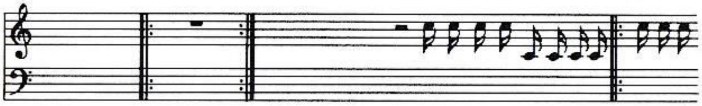
Print=1,2　7#43　　#1 OutL





Part 6　#43　スネア　　#1　ブラス低

Print=1,2　f25011　#43.2





Part 7　#1　ブラスドロン

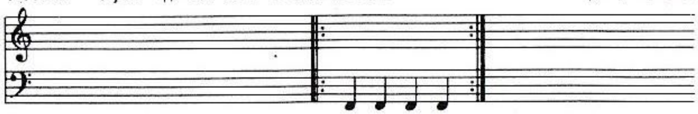
Print=1,2　12　#1　OutL3





Part 8　#46　パーカション低　#4 ストリングス リズム

Print=1,2　#46　32　Odf25512　　#4 OutR





5 STUDIO MIDI

CASIO CZ—101のイントロで始まるこの曲は、MSX マガジンの MIDI 特集の時、写真スタジオでマガジンのスタッフと、ヤマハの隅井さんの助力で PCM レコーディングした思い出の曲です。CASIO CZ—101 の音色もむろんオリジナルで、ヤマハのFM 音源のバッキング(YRM—15) とカシオのＰＤ音源がより立体的に楽しめると思います。

6 ARABESQE

みなさん御存知のこの曲は、マコさんが6才の時、ピアノの発表会で演奏なさった思い出多き曲であります。みなさんも、クラシックの小品をコンピュータにインプットしてみると、おもしろいんでねえの。

7 METAL CPU

コンピュータでヘビーメタルを……そんな発想から生れたこの曲は、ドラムスの音色をヴァンヘイレン風にして、ギターの代りに、ディストーションボイスをステレオでインタープレイさせている。ドラムスにショートディレイサウンドをプログラム上でかけている。これはドラムパートをコピーして、頭に遅らせたい分の休符をつければいい。この時、ステレオ定位を実音と変えて、レベルも下げ目にするのを忘れないでね。後半のベースラインは、ビートルズのタックスマンを盗みやした。

8 YOU NEED A SWEET LITTLE COMPUTER

西の山に鳥が一羽飛んでいカア！　ゴォヲ〜ン……と始まる、まさに東洋の大仏様ともいえるこの曲は、レイコちゃんの“ねえーあんたもーいいかげんにしてよー”という、やめてほしいのか、もっといいかげんにしてほしいのか、わかんなくなるす。前半のオリエントレゲエ風に後半の宮帝マーチ風が異常な興奮を催うします。パッキングは、むろんコンポーザで、ＰＳ—6100キーボーディシモで、手弾きドラムをしています。これがおもしろいんヨー、一度遊んでみませ。

歌詞

ねーあんたーもーいいかげんにしてよー
You need Computer　　不思議な彼女……
Yes I Love You！！
You need Computer　　教えてあげる……
In The Midnight
You need a Sweet Little Computer
You need a Sweet Little Computer
いつも　あなた　私をほって、一人お部屋で、
何をしてるのーねえ！

Everybody Come on！
Everybody Dance with Me！
Everybody Come on！ Come on！ Come on！
UOHHHH＊＊＊＊＊

9 MADONNA

弦楽四重奏のイントロからプログレ風リズムに乗って美くしいメロディーが、君の感性は、貴族のティータイム。…… ユーラシアの午後の風が、過ぎし日のマドンナの面影を そっと運んでくる。モーツアルトの守護神が、そんなイメージを与えてくれました。

10 LIVE ON THE MUSIC

人はみな日々の糧を得て暮らしている。それは多くの人の場合お金で計算されるが本来は、無形の物であるはずで、人それぞれの労働がもたらす恩恵は、黄金の大地となりて、民衆の糧となる。

というわけで、なんとこの曲は、伊豆中央農協のテーマソングとして、有線放送で、農民のゆうげを潤しくしているのです。なおこの曲のデータはリットーのマイサウンズグラフィティに収録されています。システムをお持の方は、データをアレンジしたりして、参考にして下さい。

11 I'LL FADE AWAY

3年間温ためたこの曲は、マコのLA,HAWAIIレコーディングアルバム"ジャングルパーティ"(発売未定)にも収録されていて、そちらのバージョンは、シモンズドラムや生ピアノ・ハードギターにイギリス女性ミュージシャンのアレックス・ライランスのボーカルでまとまっていますが、こちらのバージョンはヤマハキーボーディシモ PS—6100 のバックに、テクニクスのPCMデジタルピアノ SX—PV10でピアノとスチールドラムの、PCM サウンドに、ブルーマウンテンレイコさんとマコのボーカルが絡んでいる。ヤマハキーボーディシモは、PCM リズムマシンと自動演奏装置を持ったFM 音源のキーボードで、新しいコンピュータミュージックの方向を示した画期的なキーボードである。レコーディングスタジオのLSI 化ともいえる豊富な機能が、ミュージシャンをとりこにする事はまちがいない。

テクニクスPCM デジタルピアノもこのクラス初のPCM キーボードでそのリアルなサウンドは、説明しないと本物と思ってしまう程である。とにかくこの歴史的な2台のキーボードで演奏されるこの曲を聴きながら、君のソーラシステムを離脱し大宇宙を自由に漂よってくれ。

I'LL FADE AWAY

·dyu samoa lutiyu samoon
uoo give me litle bit sweet things.
oh feel my heart is blind.
uoo give me litle bit sweet things.
oh feel my heart is blind.
I'll Fade Away. I'll Fade Away.
I'll Fade Away. I'll Fade Away.
I'll Fade Away. I'll Fade Away.
I'll Fade Away. I'll Fade Away.
ohoon wo wo wo wo.
ohoon yeh yeh yeh
Fade Away, Fade Away, Fade Away,
Fade Away
yo
Fade Away, Fade Away, Fade Away,
Fade Away
yo
I'll Fade Away from my pillow.
I'll Fade Away from my home.
I'll Fade Away fromy my city.
I'll Fade Away from my country.
I'll Fade Away from my planet.
I'll Fade Away from my solar system.
I'll Fade Away from my body.
I'll Fade Away from YOU!

12 FROM NUMBER SIX TO TEN

演奏時間11分にも及ぶこの曲こそ、ヤマハMSXパーソナルコンピュータのコンピュータミュージックの真髄を聴かせてくれる大作だ。32KのYIS503でほぼメモリー一杯まで使って2ヵ月の時間を費やしインプットされたこの曲も、マコがロス・サンタモニカ滞在中に作曲された。SFサウンドとストリングスのテーマに乗ってコンピュ・ブギーの始まりだ。やがてコンヒューズサウンドがCPUの限界を超えて降り注ぐ。嵐を通り抜けた君は、コンピュ・バロック・サウンドのヒューマノイドボイスの奏でるメロディーに、今、この現実を静視する事ができる。

そして次に流れるリフレイン・サウンドを聴きながら、テレビのワールドニュースの画面を見よう。そこには病める大国、飢える小国の様子を見る事ができる。そう、このパートは、モーテルの、おNEWの日本製テレビで、CBSのニュースを見ていた時、頭の中に聴こえて来たサウンドだ。南米のサンバにジャージーなベースソロで締めくくられるこの曲は、現代、南北アメリカ大陸を象徴したサウンドと言えるだろう。Anyway……音楽的解説があまり出て来ないが、この曲の演奏データも、そのうち発表するつもりなので、興味をお持ちの方は、そのクレージーなデータをご覧下さい。

13 MY LAND

この曲は、ヤマハキーボーディシモPS—6100一台だけで演奏している曲でオリジナルPCMリズムで、演奏データ、や音色の切り替えなど、PS—6100のメモリーを一杯に使ったオリエンタル・ダブ・ミュージックです。エコーも前出のソニーPCMデジタルエコーマシンで、これまた過激なスイッチングで、気持いいでしょ。

タイトルのマイランドは、もち日本の事でして、世界最高のテクノロジーときらめく東洋の感性が作りあげたこの曲にピッタシのタイトルではないでしょうか。

14 SPRING STORM

コンピュータミュージックを追求しているメーカーがヤマハだけかと思っていたらとんでもない、ビクターステレオキーボードKB—65は、強力なPCMリズムマシンと自動演奏装置を持ったキーボードで、全体としては、ヤマハキーボーディシモと似ているけれど、オリジナルリズムパターン数や、PCMドラムの音質などで、上を行っている。イントロは、これまたコンピュータミュージックシーンに竜巻を巻き起すカシオの秘蔵っ子、CZ—101デジタルシンセだ。このシンセはイージーなオペレートでグレートなサウンドが、そう、この雷鳴もCZ—101で作られている。

15 "L5" 16 "TCM" 17 "THR"

14より30秒のブランクをおいて、MSXパソコン用のデータが入っています。これ等はパソコンにロードさせて、パソコンを動かす為のデータですので、CDプレーヤーからは直接音楽は再生されません。それにデータ音は大音量の信号なので、スピーカーや耳を痛めない為にヴォリームは下げておいた方が安全です。

MSXへのロードのしかたは、次に説明してあります。

カシオもMSX市場に参入し、今後ミディーソフトや新しいコンピュータミュージックの楽器開発に期待したい。とにかくここ2〜3年で大きな進歩を遂げるであろうコンピュータミュージックのメーカーのみなさんが良きライバルとして、一般大衆がより良いマシンをより手軽に楽しめる様に、がんばってほしいと思います。ぼくも微力ではございますが、協力させていただきます。…………………ってとこかな？

★ *HOW TO LOAD from CD*

◎ さあCDから君のMSXに直接プログラムをロードしてみよう。

◆MSX－BASIC プログラム、ファイル名“L5”の場合。

(1)まずMSXの電源をオンしてOKが出たらCLOADとキー・インする。

(2)MSXのカセットケーブルの白いジャック(ロード用)をCDプレーヤーのヘッドフォン端子へ繋ぐ。この場合、ミニ／標準、変換プラグが必要な事もある。CDプレーヤーのヘッドフォンのヴォリュームは6～8にしておく。

(3)CDを再生しトラックナンバー15を押してピーという音が聴こえたらMSXのリターンを押す。FOUND“L5”と表示されOKが出ればRUN！

◆FMミュージックコンポーザ用データ、ファイル名“TCM”の場合

(1)MSXにFMシンセユニットSFG－01とFMミュージックコンポーザYRM－15を接続し電源を入れる。

(2)画面五線譜下の？マークのあるコマンドエリアにCloadとキー・インする。

(3)MSXとCDプレーヤーの接続法は“L5”と同じです。

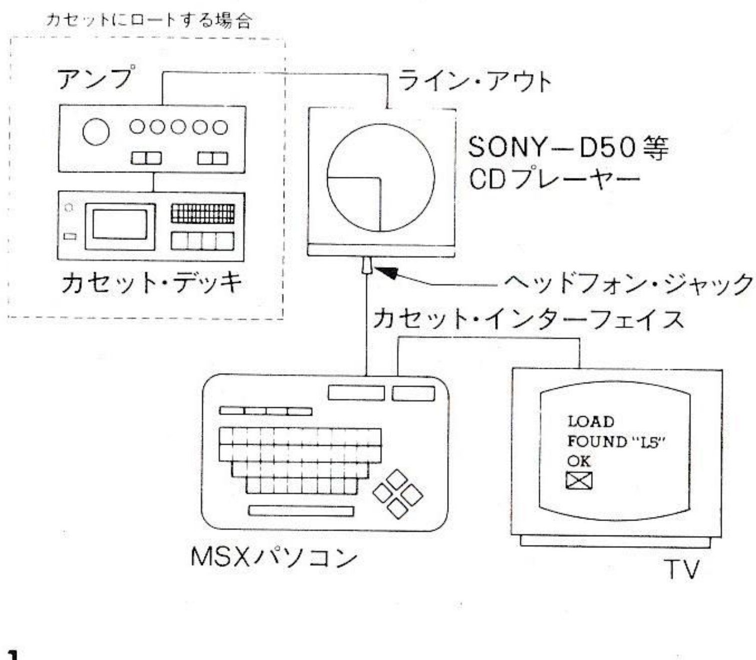
(4)CDを再生しトラックナンバー16(“THR”の場合17)を押してピーという音が聴こえたリターンを押す。画面に音譜が表示されればOK！　F5を押してリターンでプレイされます。

◆FMミュージックコンポーザ用データ、ファイル名“THR”の場合も同じです。

△もしうまくいかない時は、ヘッドフォンのヴォリュームを大きくするか、小さくするかしてやり直して下さい。

●それでもだめな場合は、CDからカセットにダビングして、それをデータコーダからLOADして下さい。

CDプレーヤーからのロードのしかた



DG 38

協力 SPECIAL THANKS

日本楽器製造株式会社／YAMAHA
カシオ計算機株式会社／CASIO
日本ビクター株式会社／JVC
ナショナル電子オルガン株式会社／Technics
ソニー株式会社／SONY
ソニーサウンドテック株式会社／SONY SOUND TEC
株式会社アスキー／ASCII
株式会社リットーミュージック／Rittor Music
東京ヒルトン インターナショナル／Tokyo Hilton International

マジカル・パワー・マコ
Magical Power Mako

1956・1・15
山羊座・A型
クラシックピアノを、4才から始める。
趣味
スキンダイビング・家庭菜園・ネコの飼育
173cm25cm／B87W74H89

ブルーマウンテン・レイコ
Blue Mountain Reiko

1960・6・22
蟹座・B型
クラシックピアノを6才より。エレクトーン教師
ヤマハ ミュージック インストラクター
エクセサイズ・手芸・九官鳥の飼育
163cm24cm／B80W58H85

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

コンパクト・ディスクの優れた特徴

《音が、すばらしく良い》

コンパクト・ディスクは、最新のコンピュータ技術を使った「デジタル」方式。従来のレコード（アナログ方式）では考えられなかったほど、良い音が得られます。

●ピアニシモからフォルティシモまでを、臨場感豊かに再現します。コンパクト・ディスクのダイナミック・レンジ（最弱音と最強音の差）は、90dB以上。この数字の迫力は、コンサート・ホールで聴くオーケストラの演奏が約100dBと言えば、納得していただけるでしょう。

●人間の耳に聞こえる範囲以上の超低音から超高音までを自然な音質で再現します。

●音の歪み率は、従来のレコードの10分の1以下。また、回転ムラによる音の揺れや震えはほとんど無く、とてもピュアで澄んだ音を再現します。

●コンパクト・ディスクは、雑音を徹底的に排除。（SN比は90dB以上）針が音溝をトレースする雑音も無いので、休止部はかぎりなく無音にちかづきました。

《いつまでも変わらない、いい音》

コンパクト・ディスクは、レーザー光線で音を取りだす非接触ピックアップ。針を使わないので、音溝がすり減るようなことがありません。また、信号が刻まれた面はプラスティックの膜で覆ってあり、直接触れることができません。だから、汚れにも強く、いい音がいつまでも変わりません。

《ポケットにも入る、コンパクト・サイズ》

コンパクト・ディスクは、シングル盤より小さく、カセット・テープより薄い。持ち運びが簡単で、収納スペースがぐんと少なくてすみます。

《扱いカンタン》

プレーヤーへのセットは、片手でポン。演奏のスタート、ストップ、選曲、頭出し、繰返し演奏などの操作は、ボタン1つですぐOK。デジタルならではの簡単操作ですから、どなたにも気楽に使っていただけます。

取扱上のご注意

①レーベルの反対側の光った面にレーザー光線をあてて信号を読みとりますから、この面を汚したり傷つけたりしないようご注意ください。
②汚れがついたときは、柔かい布で軽く拭きとってください。従来のレコード用スプレーやクリーナーは、使わないでください。
③ディスクを拭く場合は、円の中心または外側に向かって布を動かします。円周の方向には拭かない方が安全です。
④レーベル面に鉛筆、ボールペンなどで文字や記号を書きこまないでください。
⑤演奏後は、プラスティック・ケースに収め、高温多湿の場所を避けて保管してください。

MAGICAL COMPUTER MUSIC/MAGICAL POWER MAKO



1	ロード・ザ・ヴァージン	7	メタルCPU	13	マイ・ランド
2	チェンマイ	8	ユー・ニード・ア・スィート・リトル・コンピューター	14	スプリング・ストーム
3	スリラー	9	マドンナ	15	"L5"
4	ジィス・イズ・ザ・コンピューター・ミュージック	10	日々の糧	16	"TCM"
5	スタジオMIDI	11	アイル・フェイド・アウェイ	17	"THR"
6	アラベスク	12	フロム・ナムバー・シックス・トゥ・テン		

15 16 17 はMSXパソコンデータですのでCDプレーヤーから音楽は再生されません

32DG 38 STEREO/DIGITAL RECORDING